

銀賞

保全業務で大切にしている事
株式会社デンソー 高棚製作所
中村 侑真

「やることすべてに目的があるぞ。」これは私が入社1年目、企業内訓練校在学時に、担当指導員からよく言われた言葉です。当時の私は、その言葉の意味をよく分かっておらず、ただ茫然と聞いていましたが、保全職場に配属され、業務での経験からその言葉の意味と大切さを分かることができました。

企業内訓練校を卒業後、私は、自動車のスピードメータ用の小型モータと燃料センサの製造ラインの設備保全へ配属になりました。配属後の導入研修で、講師の先輩に、「保全という職種はなんのためにあると思う？」と問われました。そこで私は、保全は設備が壊れたら治す人という単純なイメージだったため、「壊れたものを治すためにある」と答えました。すると先輩に「それも間違いではないけど、保全という職種は、壊れない設備を作るという目的もあるんだよ。」と言われました。そこでも私は、そうなんだ。くらいの気持ちで聞いていました。

そんな中、ある程度作業ができるようになり、ここのシリンダを替えてほしいとの依頼があり、初めて一人でエアシリンダの交換修理をする機会が訪れました。無事シリンダの交換が終わり上司に報告をすると、シリンダ故障の原因はなんだったかと聞かれました。私は、交換してほしいと依頼されて何も考えずに交換をしたため、その質問に答えることができませんでした。すると上司から、「言われたから交換しましたは誰でもできる。保全マンだったら、もう同じ故障をしないように真因をしっかりと捕まえて、壊れない設備にするための付加価値をつけなければいけないよ。」と言われました。

振り返ってみると、今回の交換修理は、「シリンダを交換する」ということが目的になっており、ただ交換するだけで満足して終わっていました。「壊れない設備にする」という目的を理解して今回の修理を進めていけば、その目的達成のために、シリンダ故障の真因を追及して再発防止を行うといった付加価値をつけるためのアクションを起こすなど、保全としてのやるべきことが変わっていたのだと、強く実感しました。この経験が、訓練校の指導員に言われた「目的」の重要性と、導入研修で先輩に言われた「保全としての本来の目的」の本

当の意味を理解することができるきっかけとなりました。

現在私は、保全に配属されてもうすぐ4年目になります。年数を重ねるにあたって、求められるレベルも高くなり、任される仕事も増えてきました。日常業務、ルール遵守、修理だけでなく、プロジェクト活動など、あらゆることに必ず「目的」あって、その「本来の目的」を理解して、業務をすすめていくことが、最も大切なことだと実感しています。そのことに気づいたのも、企業内訓練校の時に「やることすべてに目的があるぞ。」と教えて頂いた指導員、導入研修で「保全としての本来の目的」について指導していただいた先輩にはとても感謝しています。

自分の仕事は、生産課や生産技術課など、その他関係部署の協力なくしては成り立ちません。そのため、自分は「目的」に「総力」を加え、この二つを意識してあらゆる業務を進めていくことを大切にしています。

「TPM：全員参加の設備保全」その言葉通り、周囲の力を借りて一丸となって、壊れない設備を作るという目的のために、これからも真摯に保全業務に向き合っていきたいと思います。